

## 夏休み 親子市民環境講座を開催しました。

当会では、夏休み期間（7月と8月）に親子を対象とした市民環境講座を開催しました。

### 第2回市民環境講座

#### バスで行く「国立環境研究所～夏の大公開」

平成29年7月22日（土）第2回市民環境講座を、50名の参加者を得て実施しました。

国立環境研究所と産業技術総合研究所の「夏の大公開」を利用した体験学習でした。

普段は見ることのできない研究施設や環境設備の見学、専門家（ドクター）の解説や知りたい質問にこたえてくれました。

今年は、次の点に留意しました。

- ① 事前に、見学のポイントを一覧にまとめて受講者に伝える。
- ② 受講者は、希望する見学場所を選び、意欲的にエコツアーに参加する。
- ③ スタッフは、ツアーガイドが出来るように制づくりと事前学習をしておく。

その結果、当日は限られた時間を効率よく目的意識をもって回ることが出来ました。

ここで、国立環境研究所での「おすすめ見学ポイント」を紹介します。まずは「地球温暖化研究棟」に案内して①地球温暖化オゾン層の破壊：スーパーコンピュータを使って将来の気候変動やオゾン層の破壊について将来予測結果等を展示・解説。

②自転車で発電（発電証明書発行）体験：自転車でどのくらいの電気が作れるのか体験し、どの程度の家電なら動かせるのか調べることができる。

③二酸化炭素濃度を測る機器を見てみよう：富士山麓で行われているCO<sub>2</sub>濃度の観測機器による測定の実演。

④地球環境モニタリング：空や海、宇宙で観測されているCO<sub>2</sub>濃度の測定方法や結果の展示。

などなど・・・。

＜今回のエコツアーでの感想＞

- ・クイズ等子供に分かり易く作られていて良かった。
- ・難しい展示も解説が子供向けで良かった。
- ・産総研の「サイエンス・スクエアつくば」のライフテクノロジーロボットや、地質標本館での地球の歴史を知る火山の模型・岩石・鉱物標本などに興味をもちました。

（文責：難波幸男）



### 第3回市民環境講座

#### 「水陸両用プロペラ船を作ろう」

平成29年8月26日（土曜日）、第3回市民環境講座「水陸両用プロペラ船を作ろう!」が開催されました。本年度3回目の開催となります。今回は太陽光で動く水陸両用プロペラ船の工作室を行い、30人の子ども達が参加しました。



今回の市民環境講座では募集を「広報ながれやま」で行ったところ、当日のうちに予約がいっぱいになるほどの人気でした。参加者には船体に使う牛乳パックを持参してもらい、オリジナルのプロペラ船を工作しました。牛乳パックを、指定した大きさに切り分けて組み合わせ、太陽光パネルとモーターをクリップや銅線でつなげる作業に苦労しましたが、無事にプロペラを動かすことができました。



工作した後は、いよいよ走行テストです。当日は生涯学習センターの中庭に簡易プールを作り、そこで船を走らせました。当日はあいにくの雨で、予備として積んでいた電池を使いましたが、子ども達からは、「太陽光電池で試してみたい」「太陽の日差しがあるところで試してみたい」といった感想が寄せられました。



また、当日はクールチョイス宣言パネルの展示も行いました。「クールチョイス」は国が提唱する地球温暖化対策の国民運動で、日本の優れた技術を生かして日常生活のさまざまな面で持続可能な未来につながる選択をしようというものです。流山市では、自分が考えたクールチョイスを、シールに記入して宣言することができるパネルを製作し、イベント等で展示しています。今回も子ども達に、「電気を無駄に使わない」「残さず食べる」といった宣言を行っていただきました。イベントなどでパネルを見かけた際はぜひ、ご参加ください。

# 関東ブロック推進員等合同研修会に参加して

副代表 石垣幸子

平成29年8月30日（水）～31日（木）、埼玉県県民活動総合センターで「関東ブロック推進員等合同研修会」が開催されたので当会代表として参加しました。

この研修会は、関東ブロック（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、新潟県、山梨県、静岡県、東京都、神奈川県）の地球温暖化防止活動推進員及び各地推進センターの活動について情報共有とスキルアップを図ることを目的として開催されました。

第1日目は、講演会、推進員の活動事例紹介、意見交換会。第2日目は、ワークショップでした。

## 講演「パリ協定の今後のゆくえと世界の動き」

講師：国立環境研究所、環境政策研究室  
主任研究員 久保田 泉

パリ協定の概要：2015年12月12日、締約国数159か国+1地域（EU）によって採択されたもので、2020年以降、国際社会全体でどのように気候変動問題に取り組んでいくのかを記した国同士の取り決め。排出量を0またはマイナスにすることが必要。

パリ協定が目指す世界とは：①産業革命以降の地球全体の気温上昇を2℃未満に抑える（1.5℃未満も目指す）。②“温暖化した方が得な世界”から“温暖化対策をしないとやっていけない世界”へ

日本の対策：①京都議定書の目標を達成するための計画の策定。②国民一人一人の意識の変革やライフスタイルの転換を図るための普及啓発の抜本的な強化を目指す。

## 講演「COOL CHOICE について」

講師：環境省地球環境局地球温暖化対策課  
国民生活対策室長 増田尚文

なぜCOOL CHOICEが必要か：すべての国が参加する公平で実効的な国際枠組みである「パリ協定」は発行されました。これにより、先進国も途上国も温暖化対策を強化することとなりました。日本政府も、2030年には温室効果ガスの排出量を2013年比26%削減することを目指します。

COOL CHOICE は26%削減目標達成のための旗印！

## 各地域の活動事例

- 1、群馬県センター「太陽光発電既設者との連携」CO2削減認定証を発行。
- 2、八王子市センター「環境教育支援プロジェクト」小学5年生から中学1年生に「省エネチャレンジ2017チェックシート」の取り組みを実施している。
- 3、栃木県センター「COOL CHOICE とちぎススム隊」COOL CHOICE とちぎの普及啓発活動。
- 4、静岡県センター「子供から大人まで楽しく使える『ストップ温暖化トランプ』」を開発した。



- 5、新潟県センター「生ゴミの堆肥から広がる新発田の環」棄てればゴミ、ひと手間かけて資源へ。
- 6、川崎市センター「デンキを選べば社会は変わる」自然エネルギーを目指す会社を応援。

## ワークショップ

- ①「COOL CHOICE の企画力アップを考える」普及させるための企画を考える。
- ②「地球温暖化とESDを学ぶ」ESD（Education for Sustainable Development）とは、「持続可能な開発のための教育」。持続可能な未来や社会づくりのために行動できる人の育成を目的とする。

# 省エネルギー学習会の報告

第121回「天気図を描いてみよう」（8月4日）  
講師：石井 皓（理学博士）

8月の学習会は、ラジオ放送を聞いて天気図を書く体験実習です。そして、天気図から大気の循環を考えます。石垣島、那覇、南大東島、名瀬、鹿児島・・・など地理の学習にもなります。ラジオの気象通報はNHK第2放送で毎日（16：00）に20分間放送されています。当日は「ラジオ用天気図用紙 no.2」を使って天気図を描く実習でした。



地上天気図：各地（54箇所）の風向、風力、天気、気圧、気温を聞いて用紙に記載する。

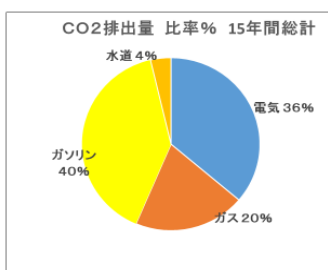
高層天気図：850hPa（1500m）、700hPa（3000m）、500hPa（5500m）、300hPa（9000m）等の気圧、気温の状況を示す。

第122回「貴方は、脱自家用車生活に踏み込めますか？」（9月1日）  
講師：新田 修（千葉県地球温暖化防止活動推進員）



9月の学習会は、住いの環境変化と省エネ行動の見直し体験談として15年間の環境家計簿から車から排出されるCO<sub>2</sub>量、維持費などを学びます。脱クルマ社会にどう取り組めるかの課題を語り合う学習会でした。

## ガソリン消費のCO<sub>2</sub>量40%、電気を超える



電気：45.3%  
ガソリン：27.5%  
(JCCCA 2015年家庭からのCO<sub>2</sub>排出量値)

## おかげさまで創立 15 周年！

「温暖化防止ながれやま」は、平成14年9月に5名の流山市在住の千葉県地球温暖化防止活動推進員により発足しました。おかげさまで、本年9月で創立15周年となりました。

地球温暖化問題という大きなテーマに対して、一人ひとりの力はそれほど大きくないかもしれませんが、皆さまの力がチームとなって結集すれば、地球規模の大きな力になれるのです。

「温暖化防止ながれやま」は、そんな思いを込めて、引き続き皆さまのご支援を賜りこれからも未来の地球のために活動してまいります。



## 編集後記

「私たちは気候変動を実感する最初の世代であり、対策をとれる最後の世代である」オバマ元アメリカ大統領の言葉だという。温暖化を突き付けられたのは私たち、そしてその温暖化対策は今を生きる私たちがやらなければ、対策のできる最後の世代だという。この9月、台風は日本各地に記録的な豪雨をもたらした。気候変動は遠い将来の出来事ではなく、その影響はすでに始まっている。

石垣幸子